



中 田 小	<b>学 校 教 育 目 標</b> さわやか笑顔中田っ子 思い合い ひびきあい 共に生きる力を育てます。
平成28年1月29日	<b>中田小ホームページ</b> <a href="http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/nakada/">http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/nakada/</a>



## 聞く力を育む

副校長 今野 敏晴

今、学校では、子どもたちや保護者、地域、教職員から出されたアンケートや意見をもとに今年度の学校運営や教育活動を振り返り、改善に向けた検討を進めているところです。

アンケートの中の「聞く力」の設問では、児童の90%以上が「授業中の先生や友達の話をしている」と答えました。また、各学年の校外学習や宿泊体験の折にも施設の方に中田小学校の子どもたちは聞く態度が大変すばらしいとお褒めの言葉をいただくことがありうれしく感じます。それは、ご家庭の中で子どもの話をしっかりと受け止めて聞いていただいたり、教職員が「聞く」ことを重視した授業実践を続けてきたりした成果だと考えています。

子どもの聞く力が低下しているということは随分前から言われています。聞く力の低下は、多くの教師が日々直面しています。例えば、教師が「教科書の41ページを開きましょう。」という子どもAが「先生、どこを開くのですか。」と答える。教師が「41ページです。それでは、Bさん、読んでください。」と指示すると「先生、どこを読むのですか。」とこんなやりとりがあり、授業が進まない。「個別に話しかけられると聞けるが全員に話しかけられると伝わらない」そういう子どもが増えてきているといえます。指示した内容が高度なわけではなく、教師に反抗しているわけでもありません。音は自然に耳に入ってくるが、その中から必要なものを選択して聞いていないのです。

聞く力が低下した原因については、核家族化、親の多忙化、テレビやゲームの普及や少子化で子ども同士の遊びが減り、コミュニケーションをとる機会が減少しているなどさまざまな要因が考えられますが、前述の「聞き逃し」については、テレビを多く見ている子にその傾向が強く出ていると言われます。テレビを多く見ている子は「言葉を聞き流す」ことに慣れてしまっているからです。どんな教育的なテレビを見させていても、子どもは内容の多くを映像からとらえ言葉は聞き流してしまっています。言葉は「映像のBGM」に過ぎないのです。大人は、テレビから聞こえてくる言葉に意味を感じ、考え、耳を澄ますことができますが、子どもは直接自分に向けられた言葉以外には耳を澄まさないものです。テレビの「独り言」を聞き流す癖がついている子どもは、授業中の教師の話も聞き流します。



一昔前なら人の話を聞く訓練が普通の生活の中で自然にできるシステムが働いていたのですが、今は、意識して取り組まなければいけない時代にあるようです。



中田小では、子どもの学習に対する構え（規律）を大切にしています。学習のスタートにあたっては、まず神経を集中し、教師の話の聞いたり、教師の提示する事象を見たりする学習の構えが必要です。この構えには、人の話を聞くことができる、一定の時間集中できる、仲間と人間関係を築くことができる、情緒が安定している等があげられます。「聞く力」は学習に対する構えの中核です。学習の構えといっても教師が頭ごなしに押し付けているわけではありません。「失敗することができる」「分からないといえる」雰囲気づくりを通して落ち着いた精神状態にすることに努めたり、

授業の導入を工夫し、「おもしろそうだな」「ためになるな」等、学ぶことは楽しいと思わせたり、ペアやグループなどで話し合う機会を増やし対話を楽しめるよう工夫したりしています。また、話し方名人、聞き方名人などの段階表などの掲示物でも意識できるようにしています。

「聞く力」は、大人がきちんと子どもと向き合い、生活や対話を楽しみ、絵本や本の読み聞かせや大人の経験などを語り、子どもと一緒に体験をたくさん共有することによって育つと考えられます。子どもたちの聞こうとする姿勢の一層の充実に向けてご理解とご協力をお願いいたします。